僕と悪魔の妹と召喚獣

ビックボスと言ってくれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕と悪魔の妹と召喚獣

【Ｎコード】
Ｎ７７７１Ｖ

【作者名】
ビックボスと言ってくれ

【あらすじ】
幻想郷から抜け出し、バカテスの世界に迷い込んだ悪魔の妹フラン。
明久とフランの出会いは、どう物語を変えていくのか。

プロローグ1

タッタッタッタッタ。
？「来ないで！」
森の中を二人の少女が駆ける。
一人は金髪で、木の枝のような羽が生えている。
もうひとりは、
？「フラン！、戻りなさい！」
青髪で、蝙蝠のような羽をした少女であった。
フ「いやだ、もうあんなところにいたくない。」
見たところ、フランという少女は、家出をしたらしい。
？「フラン！、これは、姉としていっているのよ。」
この二人は、姉妹らしい。

すこしして、視界が開けた。森を抜けたのである。
そして、この世界の結界までたどり着いた。
フ「ここさえ壊せば後は・・・。」
？「よしなさい、フラン！」
フ「・・・きゅっとしてドカーン！」
バリンと音を立てて結界の一部が壊れた。
そして、そこから淡い光があふれだし、フランを包み込んだ。
？「フラァァァァン！！？！」
そしてその日、一人の少女が、幻想郷から消えた。

プロローグ１（後書き）

フランちゃんかわいいよフラン。
ＱＥＤ「４９５年の波紋」
ちょ、まっ
ピチューン

プロローグ２（前書き）

明久登場。

プロローグ2

フ「う、う～ん」
？「あっ、目が覚めた。」
フ「！、誰！？」
？「ああ、そういえば、僕の名前言っていなかったね。僕の名前は、吉井明久だよ。きみは？」
フ「私、フラン。フランドール・スカーレットっていうの。」
明「そっか、フランちゃんって言うのか。よろしくね。」
フ「うん。・・・じゃなくて、ここどこ？」
明「僕の家だよ。」
フ「そうじゃなくて、幻想郷の何処なの？」
明「幻想郷？なにそれ？」
フ「え、ってことは・・・やったー！やっと外の世界に来れたー！」
明「え、なに？なんなの？」
少女、少年に説明中・・・　（作者の力不足です）
明「じゃあ簡単に言うと、君は幻想郷という世界から来て、しかもきみは吸血鬼だってこと？」
フ「そうだよ～。」
明「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。（キャパシティが超えました。）」
フ「どうしたの明久！？なんか頭から煙が出ているよ！？」
明「ウン、ダイジョウブダヨフランチャン。」
フ「片言になってるよ！？大丈夫！？」
少年、オーバーヒート中・・・
明「・・・。ハッ、僕は一体何を！？」
フ「大丈夫！大丈夫だから！何もしていないから！」
明「ほんとに？」
フ「うん、ホントだよ。」

明「じゃあ今夜も遅いし寝るとして、続きは明日聞くことにしよう。」

フ「分かった。」

プロローグ2（後書き）

続きは、
作「続かない」
フ、明「「続けろやぁぁぁぁ！！」」
作「やめてぇぇぇ。」
ピチューン

これで最後のプロローグ（前書き）

明久が・・・・。

これで最後のプロローグ

草木も眠る丑三つ時、
明「グゥ・・・。」
フ「・・・。お腹すいた。」
フランは、起きていた
フ「どうしてだろう？ちょっと前に食べたばっかなのに。」
フランは知らない、それは自分が吸血鬼だから起こる衝動だと。
フ「それにのども渇く・・・。」
横を見ると無防備で、首があらわになっている明久がいる。
フ「ゴクリ、（どうしてだろう明久の血を吸いたくなる）」
そしてフランは明久に近づき、
フ「ちょっとだけなら・・・。」
カプリ、とかみついた。
明「いたぁぁぁいいいい！？」
フ「チューチュー、あ、ごめん。」
明「え、なんだフランか、脅かさないでよ。姉にアイアンクローをかまされている夢を見ていたんだから。」
チューチュー
明「・・・。所でフランちゃん、いったい何を。」
フ「明久の血、美味しい。」
明「じゃなくてなんで血を吸っているの？吸血鬼にかまれたら、僕も吸血鬼に・・・ハ、！」
フ「あ、・・・・。」
明「・・・。終わった、僕の、人生、が。」

少年、落ち込み中・・・

フ「グス、ごめんね明久、私が血を吸ったばっかりに・・・。」
明久の背中には、フランと同じ羽が生えてきて、目も紅く染まっていた。
明「・・・。うじうじしてもなにもおこらないんだ。だったらあがいてみせるよ。」
フ「え、？」
明「フランちゃん、もういいよ、きめたんだ僕。」
フ「グス、・・・。なにを？」
明「人間をやめること。そして、吸血鬼として生きるよ。」
フ「でもでも、もういつもの生活には戻れないんだよ。それでもいいの！？」
明「確かにそうかも知れない。でも」
フ「でも？」
明「フランちゃんが生きているんだからそれでもいいよ。」
フ「！、・・・。あきひさぁぁぁぁ！（涙）」
明「いっぱい泣いていいよ。」
フ「う、う、うわぁぁぁぁん！」
こうして、夜が明けて行った。
続く、

これで最後のプロローグ（後書き）

明「作者・・・。」（笑顔だが、目が笑っていない）

作「な、なんだだだだいいいいいい。」

明「チョットO☆HA☆NA☆SIシヨウヨ。」

作「いやぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！？！」

ピピピピピピピピピピチューン　作×10⇒作×0

キャラ紹介

ー吉井明久ー
年齢・１６歳
体重・３０キロ未満（吸血鬼になったため）
身長・ググれカス
能力・「ありとあらゆる物を創り出す程度の能力」（命だけは創り出せない。）
見た目・明久の背中にフランの羽が生えた感じで目が紅く、八重歯が長くなった感じ
　学校以外、蒼いキングコートに、フランと同じ帽子をかぶっている。

フランに咬まれたせいで、吸血鬼化。その後、フランから勉強を教えてもらい頭が良くなった。
その知識を利用し、吸血鬼にも人間にもなれる薬を創り出し、元に戻れるようになった。
そのさいに、能力に目覚めた。

ー吉井蘭（ヨシイラン）ー
フランの今の名前。
名前を付ける際、フランのフをぬかしたら、蘭になるということで決めた。
明久のことは、兄さんと呼ぶ。
見た目は、フランに文月学園の女子制服を着せた感じ。
薬で、人間にもなれるようになった。

ー明久の召喚獣ー
見た目・蒼のキングコートをはおり、羽が生えている。

武器・背中に鞘つきの剣を一つ、腰にハンドガンを二丁かまえている。
腕輪・スナイプアクション、４０点消費、二丁のハンドガンで、連続乱れ撃ち。
　ソードファントム、１００点消費、もう一体召喚獣が出てくる。
剣を装備しており、持ち点は、１００点
　約束された勝利の剣（エクスカリバー）、持ち点を１点だけ残し消費、消費した点数分、相手にダメージを与える

ー蘭の召喚獣ー
見た目、いつものフランドールの姿
武器、時計の針のような剣
腕輪、今までのスペカ全部（ＱＥＤ「４９５年の波紋」は２００点消費。それ以外は、１００点消費）

キャラ紹介（後書き）

明久のスペカを応募しております。
コメントで書いてください。
ヨロシクお願いします。

1話～それがはじまり～（前書き）

雄二、アウト～。

1話～それがはじまり～

問題（科学）
『調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題とマグネシウムの代わりに用いるべき合金の例を1つあげなさい』

姫路瑞希の答え
『問題点……マグネシウムは、炎にかけると、激しく酸素と反応するため危険であるという点
合金の例……ジュラルミン』

教師のコメント
正解です。合金なので鉄ではダメと言うひっかけ問題なのですが、姫路さんは引っかかりませんでしたね。

吉井明久の答え
『問題点……レヴァーテインの炎を使用しなかった点
合金の例……ジュラルミン』

教師のコメント
わざわざ伝説の炎の剣を使わなくても。

吉井蘭の答え
『問題点……レヴァーテインの炎を使用しなかった点
合金の例……ジュラルミン』

教師のコメント

兄妹そろって同じ答えとは。

土屋康太の答え

『問題点……ガス代を払ってなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

第一章

「フラン遅刻しちゃうよ。」

「兄さん、蘭だって。それに兄さんが起きるのが遅かったからでしょう！」

「それは昨日の夜、蘭が壊したものを直していたからだよ。」

「うっ・・・。」

兄妹、急いで移動中・・・

「「まにあった～。」」

「ギリギリ遅刻だ、吉井兄妹」

「鉄・・・西村先生、おはようございます。」

「スネーク先生、おはようございます。」

「吉井兄、今、鉄人と言おうとしただろ。それに吉井妹、おれは潜入任務とかしないからな。」

先生の名前は、西村修一。トライアスロンが趣味なので、周りから鉄人と言われている。

「・・・お前ら、それ以外に言うことはないのか？」

「「遅れてスイマセン。」」

「うむ、それでいい。そしてこれがお前ら二人のクラス分けの結果だ。」

「「ありがとうございます。」」

パラッ・・・
『吉井明久・・・Ｆクラス』『吉井蘭・・・Ｆクラス』
と書かれていた。
「お前ら二人、がんばればＡクラス主席と次席になれたのにな。」
「「いいんです。自分で決めたんですから。」」
「自分たちで決めたんだったいい。ところで吉井妹、少し兄を借りるぞ。」
「はい。」

「吉井兄、しょうじきすまなかった。」
「なんで西村先生が謝るんですか。」
「いやあの時、おれがそばにいたのになにもできなかったからだ。」
「いいんです。気にしないでください。」
「しかしだな「自分で決めたことですから。」・・・そうか。」
「じゃあ、ぼくはこれで。」
タッタッタッタッ。
「・・・がんばれよ。」
続く

1話～それがはじまり～（後書き）

問題も受け付けます。
ヨロシク

2話～それが今の日常～（前書き）

オリ問題。

2話～それが今の日常～

問題（国語）
『悪い噂でも、日がすぎれば忘れ去られていくという意味のことわざを答えなさい』

姫路瑞希の答え
『人の噂も７５日』

教師のコメント
正解です。７５日は、しちじゅうごにち、と読みます。

吉井明久の答え
『ぼくの噂は、１年たっても消えない』

教師のコメント
いったい何をしでかしたのですか？

吉井蘭の答え
『兄さん、それはわたしのせいだよ！』

教師のコメント
意思疎通でもしているんですか？あと、その内容が気になります。

土屋康太の答え
『人には、知られたくない過去がある・・・。』

教師のコメント
貴方もですか。

ーAクラス前ー

「でかい、でかすぎる。」
「ホントに大きいね。ここ、ほんとに教室？」
「リクライニングチェアに、ノートパソコン、個人の為のクーラーや、冷蔵庫まであるよ！」
「すごいね。・・・って遅刻しちゃうよ兄さん！」
「えっ！急がないと！」
兄妹、目的地に移動中・・・

ーFクラス前ー
「「・・・・・。」」
二人は唖然としていた。
「ここって教室？」
「もはや廃屋だよ・・・。」
・・・・・・・・・。
「とりあえず行こう。遅刻しちゃっているし。」
「そうだね。」
ガラッ
「「スイマセン。少し遅れました☆」」
「早く座れ、このウジ虫ｄ「「神えの祈りはすんだか・・・。」」
吉井兄妹ぃ！？すまん別の奴かと」
「「問答無用！！」」
「ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁ！！？！」
※グロテスクなシーンでしたのでカットさせてもらいました。（笑）
「あ～、雄二のせいで、返り血いっぱい浴びちゃってるよ。どうしてくれるんだよ、雄二。」
「明らかに、おぬしらが原因じゃと思うのじゃが・・・。」
「「あ、秀吉（君）おはよう。」」

「おはようなのじゃ。」
続く。

2話～それが今の日常～（後書き）

評価ポイント数が、４０を超えた・・・だと？
そんな、粉バナナ！

３話～自己紹介ＤＡ★ＺＥ～（前書き）

コメントくれええええええええええええ！！

3話～自己紹介ＤＡ★ＺＥ～

問題（オリ）

『大人気ステルスゲーム、ＭＧＳ。このＭＧＳの３で出てくるＡＲ－１５（ＸＭ１６Ｅ１）の銃身を短く切り詰め、ストックを取り除た大型マシンピストルの名前を答えなさい。』

吉井兄妹の答え

『『パトリオット』』

教師のコメント

正解です。またこの銃は、弾倉（マガジン）が、∞の形になっており無限に弾が打ている為、チート武器として扱われました。

姫路瑞希の答え

『ヒャァァァハァァァ！！汚物は、消毒だぁぁぁぁ！！』

教師のコメント

姫路さんが暴走しました。至急、生徒は避難してください。

西村修一の答え

『ボスゥゥゥゥ！』

教師のコメント

西村先生も落ち着いて！

「え～、ちょっとそこをどいていただけません？」

「あっ、スイマセン」
みると、白髪頭で細身の人が立っていた
どうやら、このクラスの先生らしい。
「え～、このクラスの担任となった、」
といい、黒板に名前を書こうとしたが、
「・・・。福原慎といいます。」
書けなかった。このクラスには、チョークすら支給されていないらしい。」

キングクリムゾン、自己紹介までの過程を飛ばす。（作者の力不足のせいす）

「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね。廊下側の人からお願いします」
ガタッ
「木下秀吉じゃ。演劇部に所属しておる」
そう言って立ったのは、女顔に男子の制服というミスマッチな格好をした、演劇部のホープ
木下秀吉だった。
「秀吉ー愛しt、グボラァッ！」
「なんか言ったかのぉ？」
秀吉に告白しようとした人が、秀吉のストマックブローをくらっていた。ご愁傷様です。
「・・・・ちなみにワシは、男じゃ。みな、わかったかのう。」
「「「「「「は、はいいいいいいいいい！？」」」」」」」
おお、みんなびっくりしているよ。
「次の人。」
「はい。」
次は、蘭だ。さてと準備、準備。
「吉井蘭です。よろしくお願いします。」

ニッコリ
「「「「「「付合ってくだｓ、ぐぎゃぁぁぁぁぁ！？」」」」」
僕は、ハンドガンタイプの電動ガンを２丁取り出し、蘭に近づく人たちに向けて放った。
「ふぅ、疲れる。」
「お疲れ様なのじゃ。ほい。」
と、秀吉がアクエ〇アスを渡してきた
「ああ、ありがとう。」
ゴキュッゴキュッ
「次の人」
「ぷはー、僕の番だね。」
僕は、ボロそうな教卓に立って
「吉井明久です。後、僕に付け入っても、妹が彼氏を決めるので意味がないですよ。」
「「「「「な、なんだってぇぇぇぇぇ！！」」」」」
みんなの大合唱を僕は聞いた。
続く

3話～自己紹介ＤＡ★ＺＥ～（後書き）

コメント、コメントくれぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！

4話～ダブルスカーレット～（前書き）

コメントくださった方、テンクス（^ー^d）

4話～ダブルスカーレット～

問題
『貴方の通り名、二つ名を教えてください。（無い人は、無回答でいいです。）

吉井兄妹の答え
『ダブルスカーレットデビル（兄妹）蒼の悪魔（兄）悪魔の妹（妹）

教師のコメント
悪魔が通り名ですか・・・。

姫路瑞希の答え
『文月のキラーマシン』

教師のコメント
今度は、殺人機械ですか。

坂本雄二の答え
『不幸な悪鬼羅刹』

教師のコメント
悪鬼羅刹はともかく、不幸とは一体？

「ちくしょう、蘭さんとのいちゃいちゃを考えていたのに、粉バナナァァァ！！」
「どうしてくれるんだ義兄さん、僕に妹をくれるんじゃなかったの

ですか！？」
「いやいや、知らないから。後、義兄さんって何！？　妹をあげるなんて僕言ってないよ！？」
畜生、このクラスにまともなやつは居ないのか？
ガラッ
「あ、遅れちゃってスイマセン・・・。」
「「「「「「えっ？」」」」」」
扉が開いたと思ったらそこには、ピンクの髪でかわいらしい、天使が立っていた。
「ちょうど良い所に来ました。自己紹介中なのでお願いします。」
「はい」
「姫路瑞希です。よろしくお願いします。」

「質問いいですか？」
「はい、なんでしょう？」
「なんで、ここにいるんですか？」
聞き方によっては悪く感じるが、それはみんなの疑問でもあるだろう。
「実は、試験中に熱を出して、それで途中早退しちゃって・・・。」

「そう言えば俺も熱の問題が出たせいでFクラスに」
「ああ。科学だろ？アレは難しかったな」
「俺は弟が事故に遭ったと聞いて実力を出し切れなくて」
「黙れ一人っ子」
「前の晩、彼女が寝かせてくれなくて」
「今年一番の大嘘をありがとう」
ホントにバカばっかりだ。
キングクリムゾン（博麗式）

「坂本君、キミが自己紹介最後の一人ですよ」
「了解」
先生に呼ばれて雄二が席を立つ。
ゆっくりと教壇に歩み寄る姿は先程までのふざけた雰囲気は見られない。
「坂本君はFクラスの代表でしたよね？」
福原教諭に言われ、頷く雄二。最もクラス代表といっても最低クラスの成績者の中での一番に過ぎないし、僕ら兄妹や姫路さんに比べればその成績は遥かに劣るはずだけど。
「Fクラス代表の坂本雄二だ。俺の事は代表でも坂本でも、好きなように呼んでくれ。」
「不幸な悪鬼羅刹」
「その通り名は、やめろ！」
雄二が好きなように呼んでくれって言ったからじゃないか。
「まあいい。さて、皆にひとつ聞きたい」
折れかけのちゃぶ台
スキマ風が入る窓ガラス
綿の入っていない座布団
カビ臭い教室
「・・・不満はないか？」
『『『大ありじゃボケェェェェーーーーーー！！！』』』
「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ。代表として問題意識を抱いている」
『そうだそうだ！理不尽過ぎる！』

『いくら学費が安いからと言って、この設備はあんまりだ！改善を要求する！！』
『そもそもＡクラスだって同じ学費だろ？あまりに差が大きすぎる！！』

次々と上がる不満の声。
そんな皆の反応に満足したのか、雄二は不敵な笑みを浮かべる。
流石、人を乗せるのだけは上手い。

「皆の意見はもっともだ。そこで！」

「これは代表としての提案だが、ＦクラスはＡクラスに『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」
続く

4話～ダブルスカーレット～（後書き）

１４０ポイント超えたよ
ゆっくりしていってね！

5話～林檎と蜂蜜、赤色と金色混ぜたなら～（前書き）

友達に、小説を書いていることがばれた。
何処から情報が漏れたんだろう？

5話～林檎と蜂蜜、赤色と金色混ぜたなら～

問題
『貴方の得意科目を答えなさい』

吉井明久の答え
『歴史・日本史・英語・理科・数学・』

教師のコメント
１教科があれだけの点数ですからなにも言えません。

吉井妹の答え
『国語以外全部。』

教師のコメント
国語が苦手ですか。ちゃんと勉強すれば分かりますよ。

『勝てるわけがない』

『これ以上設備を落とされるなんて嫌だ』

『姫路さんと秀吉、蘭ちゃんさえいれば何もいｒぎゃぁぁぁぁぁぁぁ！！？！』

悲鳴が聞こえたほうを見ると、姫路さんのＭ４Ａ１（東〇マル〇製）と、秀吉のリバーブロー、蘭の正拳突きを喰らっていた。ご愁傷様ＤＥ★ＳＵ

話を戻そう。

次々とそんな声が上がる。しょうがないだろう、そのぐらいＡクラスとＦクラスの戦力差は明らかなのだ

「そんなことはない。必ず勝てる。いや、俺が勝たせてみせる」

そんなことを分かりきっている雄二は堂々と宣言した

『何を馬鹿な事を』

『できるわけないだろう』

『何の根拠があってそんなことを』

次々と否定的な意見が教室中に上がる。確かにどう考えても勝てる勝負ではないだろう、しかしだからといって諦める気はさらさらない

「根拠ならあるさ。このクラスには試験召喚戦争で勝つことのできる要素が揃っている」

そう強く言い切った雄二の言葉に教室がさらにざわめく

「それを今から証明してやる」

雄二は得意な不敵な笑みを浮かべて教壇からFクラスを見渡す

「おい、康太。畳に顔つけて姫路と蘭のスカートを覗いてないで前に来い」

「・・・・・・!!（ブンブンッ）」

ヒュン（僕がナイフを投げた音）

バンッ（康太が、畳をたたいた音）

ザクッ（畳のにナイフが刺さった音）

「康太君〜？君は人の妹のスカートを何覗いちゃっているのかな〜？」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴッ!!!（僕の背中から羽が出て黒いオーラが出る音）

「!、・・・・・羽?」

「これは、今から君を抹殺するための羽だよ。」

ササッ（康太が土下座した音）

「・・・・もういいよ、だけど次したら。」

ダンッ、ダンッ（バックから、ハンドガン（電動ガン）を取り出し、康太の横に撃った音）

「わかった?」

「・・・・・・!!（ブンブンッ）」（縦に振っている）

「話を戻すぞ。」

「土屋康太。コイツがあの有名な、『寡黙なる性識者』〈ムッツリーニ〉だ」

「・・・・・・!!（ブンブンッ）」

『『『『『なんだと!!!』』』』』』

土屋康太という名自体はそこまで有名ではない。だが、ムッツリーニという名は別だね。まぁ、ただたんに変態を示す名なんだけど。

雄二の発言にFクラスはざわつく、そこまで驚くことかなぁ?

「「???」」

姫路さんと蘭は意味が分からないのか頭の上に疑問符を大量に浮かべている。ただのムッツリスケベということを教えた方がいいだろうか？

「姫路のことは説明する必要もないだろう。皆だってその力はよく知ってるはずだ」

「えっ？わ、私ですかっ？」

確かにAクラスでもトップに入るぐらいの点数だから、姫路さんの存在は欠かせない。

「それに、吉井兄妹だっている」

続く

5話～林檎と蜂蜜、赤色と金色混ぜたなら～（後書き）

明久のスペルカードを応募しています。
コメントに書いてください。

その他のキャラ紹介（追加）（前書き）

今回は、吉井兄妹以外のキャラ紹介をします。

その他のキャラ紹介（追加）

ー姫路瑞希ー

文月学園の彼女にしたい人ランキングで、いつも上位を獲得しているグラマーボディの女の子

しかし彼女には、『文月のキラーマシン』という名の通り名がある。

この意味は、

1、常にバックには電動ガンが入っていて、手を出してきた輩には容赦なく浴びせることからきている。

2、格闘技にも精通しており、本気のキックは、コンクリートの壁も壊すから。

などなど、黒い噂が絶えないことでも有名である。

でもやっぱり、ランキングは上位。

（明久にまだ未練がある）←これ

ー木下秀吉ー

もっとも女の子に近い男子1位を毎回取っているが本人は知らない。

また、過去に姉がさらわれた事件があり、そのショックで人格が変わってしまった。（一方通行みたいな性格）

普段はおとなしいが、一度切れると鉄人でさえ止めれないほどに暴走する。

姫路とは、恋人関係。（言っちゃた。）＝　姫路×秀吉

姫路に手を出す輩や、告白する輩には、この世の地獄を見せる

唯一、吉井明久と吉井蘭の正体を知る人物

その他のキャラ紹介（追加）（後書き）

そのほかのキャラは、原作道理なので書きませんでした。

6話～スキマバｂ（ｒｙ、ピチューン～（前書き）

ゆかりん登場。
ゆかゆか～ゆかり～んゆかりゆかゆか、
ゆかゆか～ゆかり～んゆかりゆかりん。

ゆかりんファンタスジア・カオスＦＵＬＬより。

6話～スキマバｂ（ｒｙ、ピチューン～

『『『『吉井兄妹？』』』』

「雄二、個人的にＯ☆ＨＡ★ＮＡ☆ＳＩ★があるんだ。」

「ちょっと待て明久！　これは決して、オチに使ったわけじゃない！！」

「へぇ～・・・。」（目が笑っていない）

「ホントだ！！　みんなよく聞け！！」

「こいつら兄妹は、別名「ダブル・スカーレット・デビル」だぞ！」

『『『『『『『な、な、なぁぁんんだぁぁぁぁってぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！！！！』』』』』』』』

うるさっ！！

『嘘だろ！？あの伝説の！？』

『１年の時のＡクラス代表と次席を取った兄妹だよな！？』※１

『文月の有名な暴走族「魔真眼　獲無百参十六（マシンガン　Ｍ－１３６）」の軍団を、二人で１分以内に壊滅させたって言う噂の！？』※２

『鉄人を１発殴っただけで、病院送りにしたって言う！？』※３

うん、全部ホントの事だからつっこめない。

※1→明久＝代表　蘭＝次席

※2→5万人ぐらいの規模。二人で1秒間に833人は倒している事になる

※3→明久が暴走して、鉄人を殴った。

と、まぁこんな感じ。そして・・・。

『お、オレ、ファンなんです！サインしてください！』

『先程は、妹をくださいなんて言ってすみませんでした！』

『アンタのおかげで、夜道が安全になったよ！ありがとう！』

絶賛、大人気中である。

「それに、木下秀吉もいる。」

『おお、あの木下優子の・・・。」

『これならいけるんじゃないか！』

などなど、いろんなところから声が上がる

「これだけの戦力がいるんだ。負けるはずがない。よし、今からDクラスから落とすぞ。」

『『『『『おおぉぉぉぉ！！！！！』』』』』

「明久には、宣戦布告に行ってもらう。あいつがいるしな。」

「わかったよ。」

明久達は気づかない。

「ふふ、見つけたわ。　結界を壊した本人と、その子に吸血鬼にされた人間。」

Ｆクラスの隅の小さな亀裂から、何かが覗いていることも知らず・・・。

6話～スキマバｂ（ｒｙ、ピチューン～（後書き）

ゆかりんキター
明・渇望「ヴァンプライヤー」
「ギャァァァァァ！！？！」
ピピピピピピピピピピピピチューン
作×１１＝作×１
「気合いで残りきったぜ・・。」
蘭・禁忌「恋の迷路」
「いやぁぁぁ！！」
ピチューン・・。

7話～UN・オーエンは彼女なのか？～（前書き）

キャラ崩壊アリ。

7話～UN・オーエンは彼女なのか？～

ーDクラス前ー
ガラッ
「ちょっとよろしいでしょうか。」
ざわざわ
『おい、アイツってFクラスの奴だよな。』
『ああ、なんでFクラスの奴がここに？』
『どうせFクラスだ、放っておいてもかまわんだろう。』
「言われ放題だね・・・。　ってすいませーん、Dクラスの代表は居ますか？」
「僕だけど。」
「あ、えっと、Fクラスの使者として来ました。」
「Dクラス代表の平賀源二だ。よろしく。」
「はい、宜しく・・・。って僕、用件があったんだ。」
「用件？」
「はい実h「お兄様ぁぁぁぁ！！」やっぱりこのクラスだったんで

すね。清水美春先輩。」

「先輩って堅苦しい言わないでください、お兄様ぁぁぁぁ！！」

ドゴッ！！←明久が美春のデビルバットダイブをまともに喰らった音

「グボラァッ！！？！」

ヒュン

バリーンッ！←明久が吹っ飛び、窓が割れ、落ちた音

「あ、やっちゃいました。」

『『『『やっちゃアカンだろおぉぉぉぉ！！　って大丈夫ですかぁぁぁぁ！！。』』』』

「あ～、死ぬかと思った～。」

『『『『いや普通、死ぬからぁぁぁ！！！！！　何で生きているのぉぉぉ！！！！』』』』

「さすがお兄様です。美春のデビルバットダイブを受けてもまだ平気でいられるんですから。」

「いや、さすがに今度は死ぬかと思ったよ。」

「「あっははははは。」」

『『『『・・・。（あいつら、化け物か？）』』』』

「あ、そういえば、代表に話があるんだった。」

「美春が代わりに伝えますよ。」

「うん、じゃあ・・・・。」

少年、少女に説明中・・・・。

「じゃあまた今度、バイトで。」

・・・・

「美春はいつでも待っていますよ～。」

少年、祈願中・・・

7話～UN・オーエンは彼女なのか？～（後書き）

美春のキャラ崩壊です。

8話～塩と水ではない～（前書き）

明久のスペカの募集をしています。
コメントに書いてください。

8話～塩と水ではない～

「ただいま～」

「おう明久、やっと帰って・・・。どうしたその制服？」

「美春先輩のデビルバットダイブを喰らって、窓から落ちた」

「さすが兄さん、それを喰らってもまだ生きているんだから」

『『『『いやいや、普通生きていないから！！』』』』

「それが明久クオリティーだからな」

「雄二君～。ちょっと歯をKU☆I★SI☆BA★RO☆U★KA☆」

「じょ、冗談だ明久。だからその手に持っているいかにも人をたくさん切って来たような大きな包丁を降ろすんだ！」

「わかったよ・・・。（チッ、もう少しで美味しいアレが手に入ると思ったのに。）」

「？、なんか言ったか？」

「いや、なんにも」

キーンコーンカーンコーン

「お、もう昼か」

「蘭、ちゃんといつものやつ持ってきた？」

「うん。ちゃんと持って来たよ」

少年少女ｓ移動中・・・

「明久、Ｄクラスの試召戦争は何時にした」

「えっと、今日の午後の１時３０分にしたけど」

「分かった。それじゃあみんな午後からの試召戦争の為に今のうちに準備しとけ」

「「「「わかった（のじゃ、ました、わ）」」」」

「ねえ、もうご飯を食べていいかな？」

「ああ、いい・・・。」

「どうしたんじゃ坂本。急に顔が青くｎ・・・。」

「どうしたんですか？そんなに青ざめｔ・・・。」

皆が青ざめるのも無理が無い。なぜなら明久と蘭が持っているのは

B型の血液パック×5だからだ。

「「「「「え、えぇぇぇぇぇぇ！！！！！」」」」」

続く

8話～塩と水ではない～（後書き）

次回から、バカテストを復活させます。

9話～僕らの正体～（前書き）

明久のスペカを募集しています。
コメントに書いてね。
それじゃあ

ゆっくりしていってね！！

9話～僕らの正体～

問題(オリ)

「東方ｐｒｏｊｅｃｔの中で創造神として崇められている英語３文字の神の名前を答えなさい。」

吉井兄妹の答え

「「ＺＵＮ」」

教師のコメント

正解です。ちなみに「ぞん」と読みます。

姫路瑞希の答え

「ＭＺＤ」

教師のコメント

それは、ポップンの世界の神様です。

「明久、それは血液なのか？」←雄二

「ちがいますよね？」←姫路

「えっと・・・言いにくいけど、血液だよ」

・・・・・・・・・・・・・・・。

「明久、血が足りないなら献血に行けばいい。」

「アキ、そんなに血が足りなかったんだね。」

「ちょっとまってみんな、まるで僕たちが血が足りないみたいに見えるよ！」

「「「「そうにしか見えない（です、よ）」」」」

「ちゃんとした理由があるんだから！！」

「兄さんの言う通り。ちゃんとした理由があるんだよ！」

「で、理由は何だ？」

「ばらしちゃっていいのかな？」

「いいんじゃない？どうせ何時かは、ばれるんだから」

「じゃあみんなこれを見て驚かないでね。」

「なにをいっtうわぁぁぁ！！」

明久と蘭の体が眩く輝く

少しして輝きが無くなると、そこに立っていたのは、

「久しぶりにこの姿だね」

「ホントにそうだね」

木の枝のような羽が生え、服装が変わっている、明久と蘭であった。

「「「「（ポカーン・・・）」」」」

「あれ？みんなどうしたの？」

「兄さん、きっと頭が追いついていないのよ」

「おまえら、その姿は！？」

「アキが急にかっこよくなった・・・」

「明久君、素敵です！」

「ありがとう美波、姫路さん」

「「ボンッ！！　プシュゥゥゥゥ！！」」

「ちょ、大丈夫！？顔が赤いよ！？」

少女ｓ、オーバーヒート中・・・

「落ち着いた？」

「ありがとうアキ」

「ありがとうございます、明久君」

「いやいやそれほどでも」

「ところで明久その姿は・・・」

「ああ、この姿？実は僕たち・・・」

一瞬、躊躇う様に言葉を止めたがスグに言った。

「「吸血鬼なんだ」」

「「「・・・・・・・・・・・・、はい？」」」

「だから吸血鬼なんだっｔ「「「えぇぇぇぇぇ！！！！」」」」

うるさっ！！」

・・・・・・・・・・・・・・

「今日は驚くことばっかりだ」

「・・・・、まったく」

「びっくりしちゃいました」

「ほんとおせがわせね」

「あはははは、ゴメンゴメン。そんなに驚いた？」

「「「「驚くわ！普通！！」」」」

「今度から気を付けるよ」

「まったく。ワシに会った時と同じことを」

「秀吉君は知っていたんですか？」

「ちっと昔にのう。明久達に助けてもらった事があるのじゃ」

「その時の秀吉って今よりも女の子っぽかったよね」

「これ明久！言っても良いことと悪いことあるじゃろう！」

「ごめんね秀吉」

「まったく、お主はいつもいつも（ｒｙ」

少年、説教中・・・

「わかったかのぉ」

「分かったから、その拷問道具早くなおして！！」

続く？

9話～僕らの正体～（後書き）

コメントありがとう

１０話～迷える恋の迷宮～（前書き）

Ｄクラス戦スタート前

１０話～迷える恋の迷宮～

問題
『濃塩酸と濃硝酸を３：１の割合で混ぜた混合液を何というか』

吉井明久の答え
「王水・ＣＡＳ登録番号８００７－５６－５・逆に１：３の割合で混ぜると『逆王水』ができる」

教師のコメント
もはや言う言葉もありません。ちなみに『逆王水』は、金属の溶解などに使われます。

Ｆクラスの生徒たち
『それを明久達の眼や鼻ｎギャァァァァ！！』

教師のコメント
何故でしょうか、テストの用紙に赤い何かが付いていいて読めません。

姫路瑞希の答え
「秀吉君のお弁当に使うデミグラスソース」

教師のコメント
・・・・えっ？

「それじゃ雑談もそこそこに、そろそろ本題に入るよ雄二」

「ああ、そうだな」

「気になっておったのじゃが、なぜDクラスなのじゃ？」

僕が気になることを真っ先に言われた・・・

「簡単だ。姫路や吉井兄妹に問題がない今、Eなら正攻法でも勝てるが、Dクラスは難しい。それに初陣だから派手にやって景気つけたいし、Aクラス攻略の為に必要な要素がDクラスにはある」

まぁ時間かけて準備をすればCクラスだって勝てるけれどDクラスにあってCクラスに無い要素があるんだろうなぁ

「つまりAクラス攻略のための第一段階って事だね」

僕が簡単に言う

「あ、あの！」

瑞希が大きな声で雄二と僕と秀吉に質問した

「ん？どうした姫路」

「えっと、その。吉井君と坂本君と秀吉君は、前から試召戦争について話し合ってたんですか？」

「ああ、それか。それはついさっき、姫路と島田の為にって明久と

秀吉に相談されて・・・」

「「それはそうと！」」

僕と秀吉が雄二の台詞を遮るように、大声を出す

「さっきの話、Dクラスに勝てなかったら意味がないよ」

「そうなのじゃ」

「負けるわけないさ」

明久の心配を笑い飛ばす雄二

「お前らが俺に協力してくれるなら勝てる」

そう言って・・・

「いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ」

そういって拳を空に向けて上げた

１０話～迷える恋の迷宮～（後書き）

明「作者さん」ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴッ！！！！！

作「は、ハイィィィィ！？」

明「どうして更新が遅くなったのかな？」

作「えっと・・・それは・・・その・・・。」

明「言い訳しない！」

作「はい！　スイマセン！　実は、新しい作品が思いついて・・・」

明「それで遅れたと？」

作「はい、スイマセン」

明「はぁぁぁ・・・、分かった」

作「ゑ？」

明「発音おかしいけど・・今度から気を付けてね」

作「・・・・はい」

１１話～紅くて甘い罠～（前書き）

久しぶりの投稿ＤＡ☆ＺＥ★
コメント夜露死苦！！

11話～紅くて甘い罠～

問　以下の意味を持つことわざを答えなさい。
『（1）得意なことでも失敗してしまうこと』
『（2）悪いことがあった上に更に悪いことが起きる喩え』

姫路瑞希の答え
『（1）弘法も筆の誤り』
『（2）泣きっ面に蜂』

教師のコメント
正解です。他にも（1）なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』、（2）なら『踏んだり蹴ったり』や『弱り目に祟り目』などがありますね。

土屋康太の答え
『（1）弘法の川流れ』

教師のコメント
シュールな光景ですね。

吉井明久の答え
『（1）ジー○アスも魔法の失敗』
『（2）泣きっ面に蜂』

教師のコメント

（2）は合っていますが、（1）はチョット・・・でも、先生もテイルズは好きです。

吉井蘭の答え
『（1）慧音も歴史の誤り』
『（2）弾幕に負けた後の霊夢』

教師のコメント
どういうことですか？

「吉井！木下たちがDクラスの連中と渡り廊下で交戦状態に入ったわよ！」

「分かった！！」

只今、Dクラス戦中・・・

『横溝がやられたぁぁぁ！！！』

『さぁ来い！この負け犬が！』

『て、鉄人！？嫌だ！補習室は嫌なんだっ！』

『黙れ！捕虜は全員この戦闘が終わるまで補習室で特別講義だ！終戦まで何時間かかるかわからんが、たっぷりと指導してやるからな』

『た、頼む！見逃してくれ！あんな拷問耐え切れる気がしない！』

『拷問？そんなことはしない。只の洗ｎ・・・これは立派な教育だ。補習が終わる頃には趣味が勉強、尊敬するのは二宮金治郎、といった理想的な生徒に仕上げてやろう』

おい、今洗脳って聞こえたぞ！

『お、鬼だ！誰か、助けっーーイヤァァーー（バタン、ガチャ）』

『『『『嫌ぁぁぁぁぁぁ！！（（（（（（（（（（（；゜Д゜））））））））））』』』』

みんなの戦意がガクッと下がった

「怯むんじゃない！皆進めぇぇぇ！！」

『『『サーイエッサー！！！』』』

「お兄様ぁぁ！！！！！！」

「美春センパァァァイィィィィ！！！！？！」

グシャッ（美春が明久に、タックルした音）

「本日二度目ぇぇぇ！！！」

バリーンッ

『『『『『『『『『『明久隊長ぉぉぉぉぉ！！！！！！！！？？？！！！！』』』』』』』』』』

『そんな・・・明久隊長が・・・』

『貴様ら、許さんぞぉぉぉ！！！！！！！！！！！！』

『明久隊長の仇を取るんだ！！』

『『『『『『『オォォォォォォォ！！！！！！！！！』』』』』』』

死んでねえよ

キングクリムゾン（後の過程を飛ばす）

『Fクラスの姫路瑞希がDクラス代表の平賀源二を倒したぞ！』

『『『『『ウオオオオオオオオ！！！！』』』』』

続きます

外伝～意外な彼らの日常ＩＮ文月・ＴＯＳのリフィルと姫路さんのおいしい家庭

ｐｖが５万こえたので

コラボ作品始めます。

バカテス×ＴＯＳ（テイルズオブシンフォニア）

外伝～意外な彼らの日常ＩＮ文月・ＴＯＳのリフィルと姫路さんのおいしい家庭料理教室！（笑）

？「はい、はじまりました～。姫路さんとリフィルさんのおいしい家庭料理教室！（笑）」

ワ～、パチパチパチ。

？「今回の料理のイケニ・・・実食するのは、この方たちです！」

？「離せぇぇぇぇ！！俺はまだ死にたくないぃぃ！！」

？「せっかく、『おいしい料理が食べられるぞ』って言われたから来たのにいぃぃ！！」

？「ロイドさんと明久さんです。」

？「ちなみに今回の料理教室の進行兼、司会を務めるは私　ジーニアスです。」

ロ「ジーニアスゥゥゥ！！！！裏切りやがったなぁぁぁ！！！」

ジ「だまされる方が悪い（笑）」

ロ「チクショウ！まさかあんな餌に引っかかってしまうとは！！」

〜回想シーン〜

ジ「なぁ、ロイド」

ロ「なんだ、ジーニアス？」

ジ「今回、作者の計らいでコラボすることになったんだ」

ロ「マジで！？　何処と！？」

ジ「落ち着けロイド。　作者の一番ＰＶの多い小説と言えば？」

ロ「僕と悪魔の妹と召喚獣・・・あっ！」

ジ「分かったか？」

ロ「つまり、俺たちがバカテスの世界に行けるってことだな！」

ジ「そういうことだ。ただし、条件がある」

ロ「条件？」

ジ「絶対に、文句を言わない事だ」

ロ「それぐらい、朝飯前さ！」

ジ「それじゃあ、行こうか！」

ロ「おう！」

～回想終了～

ロ「今思えば、リフィルを連れている時点で気付くべきだった！」

明「蘭！助けて！いくら兄が吸血鬼でも死んでしまうよ！！」

ジ「残念ながら蘭ちゃん、もといフランちゃんには、『今日1日だけ、バルバトスさんと遊んでいいよ』と言っておきましたので」

明・ロ「「鬼だ、鬼がいる！！」」

ジ「失礼な、僕はエルフですよ」

ロ「知ってるわぁぁ！！そんなこと！！」

明「あぁ、バルバトスさんと蘭が暴れたらきっと大変なことに・・・」

ジ「ちなみに遊んでいる場所は、貴方の家ですよ？」

ブチッ！！←キレた音（明久）

明「能力で逃げてやんよぉぉ！！」

プスン・・・

（ °Д° ）ハァ？

明「何故だ！何故発動しない！？」

ジ「ああ、今回逃げる可能性があったので、洗礼された銀の椅子を用意しました（笑）」

明「チクショォォォォォ！！！！！！！」

続く

外伝～意外な彼らの日常ＩＮ文月・ＴＯＳのリフィルと姫路さんのおいしい家庭

外伝は、少し続けます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7771v/

僕と悪魔の妹と召喚獣

2011年9月30日06時59分発行